

# 進路だより

箕輪進修高校 進路指導室

2010.12.13

No. 66

## 思い通りにならないのが人生



まだ進路が決まらずに苦しんでいる人が何人かいます。今回はたまたま進路で悩まなくとも皆さんがこれから長い人生を生きていく中で、一般的には自分の思い通りにならないことの方が多いものです。そんなとき周囲の人を見るとみな幸せそうに見えるかもしれませんが、皆それぞれに一度ならず様々な挫折経験や、悩みをかかえたり、またそうしたものを乗り越えてきているのです。

それは自分のことであったり、家族のことであったり、仕事のことであったりと様々でしょう。人間の真価は思い通りにいかなかったとき、そこからどう抜け出したかにより決まってくるともいえます。苦しいときに安易な逃げの道を考えると、そのときはそこから逃れても結局は本質的な解決にはならずもっと苦しい事態を招くかもしれません。そのとき親や、先生や、他の人や社会のせいにしても何も解決しません。一時の責任転嫁でしかありません。安易な逃げは、挫折感等、自分の心の傷を深めるだけです。

時には苦しくとも真正面からその苦しさに対決してなくてはならないこともあります。またあまり苦しさだけを真正面から受け止めるとその苦しさには耐えられなくなり落ち込んでしまうかもしれません。そんなとき「思い通りにならないのが人生。何とかするさ」と一歩下がって見つめてみると、気持ちが幾分楽になるかもしれません。そして、ではどうしたらよいかを冷静に考えてみることです。

皆さんの人生において自分の思い通りにならず苦しい思いをすることはこれから少なくないでしょう。そうしたものに安易に負けない強い心を育てていかないと、これからの人生を乗り切ることは出来ません。そうした覚悟をしっかりと、

強くそれらを乗り越えていって欲しいものです。また、うまくいかなかった過去にいつまでもこだわることなく未来志向で生きていくことも大切です。

### 県内の大学・短大生ら内定率45.6% 就活出口見えず

長野労働局は30日、県内の大学や短大、高専、専修学校を来春卒業予定の学生の就職内定率が、10月末時点で45.6%にとどまっていると発表した。統計がある2005年度以降で最低だった前年同期より0.5ポイント高いが、引き続き低水準で推移しており、県内で大学生らの雇用環境が改善していない実態が浮かんている。

信濃毎日新聞 12月1日(水)



県内大学や短大などの就職内定率が前年に続いて低迷している。信州大学若者たちは、先の見えない厳しい就職活動を強いられる。

信大農学部(上伊那郡南箕輪村)4年の女子学生22人が就職活動を始めたのは昨年10月。食品会社を中心に約40社受験したが、すべて落ちた。結果待ちの県内の畜産物販売会社も落ちたら、卒論に集中するため来年2月まで就活は休むつもりだという。下宿の郵便ポストを折る思いでのぞき込む毎日。「将来の不安と向き合いながらの勉強は正直苦しい」

飯田女子短大(飯田市)2年の女子学生(20)も、事務職と製造業の3社に願書を出したが、いずれも面接に進めなかった。「何がいけないのかさえない」今後は合同面接会に足を運ぶつもりだが、「就職がこんなに難しいとは…」とぼした。

### 大学担当者「厳しい状況」

松本大(松本市)4年の太田紗世子さん(21)は9月、飯田市の病院の医療事務職で内定をもらった。ここまでは7社が不合格。「何度も就活を諦めようと思った。周りの人はまだ決まっておらず、複雑な気持ち」という。

「厳しい状況にある」と信大生支援課の担当者。信大は来年度から、社会人を講師にした半年間の「現代職業概論」を、学生の自己分析やマナー講習なども加えた通年講座「キャリア形成論(仮題)」に衣替えするなど、就活支援にさらに注力する。

ただ、「大学が学生の支援を強化しても、そもそも求人全体が落ち込んでいる。採用には限界がある」と長野市のメーカーの人事担当者は指摘する。「県内で学生たちを受け入れる雇用を広げていくには、幅広い分野の産業育成がまず必要だ」と訴えた。

「こんなに難しいとは」「何度も諦めよう」と